

2009年4月30日

報道関係各位

ヤマハ株式会社

(参考資料)

2009年3月期決算の概要と2010年3月期業績予想について

□2009年3月期決算の概要 — 対前期減収減益、当期純損失に —

2009年3月期連結売上高は、前連結会計年度に電子金属事業及びレクリエーション事業の一部を譲渡したことによる減収143億円、為替影響による減収349億円があったことに加え、世界的な消費の低迷等により前期比895億円、16.3%減の4,593億円と大幅な減収となりました。

連結営業利益は、主力の楽器事業をはじめ全セグメントで対前期減収となったことに伴い、全セグメントで減益、楽器を除くセグメントでは営業損失となったことで、前期比57.8%減の138億円となりました。連結経常利益は、前期比63.2%減の120億円となりました。

一方、連結当期純利益は、構造改革費用や固定資産の減損損失、関係会社出資金評価損等を計上したことにより249億円の特別損失を計上したことに加え、繰延税金資産の減少等により、当期純損失206億円となりました。

なお、3月19日の業績予想に対しては、売上高は未達となりましたが、損益面では、経費削減等の収益改善が想定以上に効果をあげたことから、営業利益23億円、経常利益25億円と各々増加し、当期純損失も24億円改善されました。

□事業セグメント別の売上高・営業利益の状況 ( )内は原則として前年同期比増減率

\*事業セグメント構成の変更について

前連結会計年度において「電子金属」事業を譲渡したことに伴い、当連結会計年度より「電子機器・電子金属」事業セグメントを「電子部品」事業セグメントに名称を変更しました。また、「レクリエーション」事業セグメントについては、「レクリエーション」事業を営む6施設のうち4施設を譲渡したことに伴い「その他」の事業セグメントへ含めることに変更しております。

・ 楽器事業 売上高 3,066億円(前期比9.8%減) 営業利益 192億円(同31.2%減)

ピアノは、中国市場では売上げ増加となりましたが、国内市場及び北米市場の需要低迷などにより、減収となりました。電子楽器も、主に北米市場悪化の影響を受け減収となりました。管弦打楽器では、ギターや電子ドラムが堅調に推移しましたが、管楽器は振るいませんでした。成長を期待していた設備用音響機器は、市況の悪化により前期並みに留まりました。音楽ソフト事業は、CD等の音楽ソフトや音楽出版が好調だったことにより増収となりました。教室収入につきましては、音楽教室は横這いとなりましたが、英語教室が幼児コースの在籍者数の増加により増収となりました。セグメント全体では、北米市場での減収と為替の影響による減収が大きく、対前期減収となりました。損益は、減収に加え、為替影響などもあり減益となりました。

・ AV・IT事業 売上高 567億円(同19.9%減) 営業損失 4億円(前期18億円の営業利益)

オーディオ機器は、北米、欧米市場でAVレシーバーやホームシアター商品の販売が苦戦したことなどにより、減収となりました。また、ルーター及び業務用通信カラオケ機器も減収となり、セグメント全体では為替影響もあり、対前期大幅な減収となりました。損益は、減収に伴い営業損失となりました。

・ **電子部品事業** 売上高 220億円 (同51.2%減) 営業損失25億円 (前期19億円の営業利益)

電子部品事業は、前連結会計年度に電子金属事業を譲渡したことによる減収92億円に加え、携帯電話用音源LSIがソフト化の進行や国内市場の悪化により対前期大幅な減収、アミューズメント向け音源LSIも市況の悪化により減収となり、セグメント全体では大幅な減収となりました。損益は、減収に加え、利益率低下により前期の営業利益から営業損失へ転じました。

・ **リビング事業** 売上高 431億円 (同5.3%減) 営業損失 3億円 (前期6億円の営業利益)

システムキッチン、システムバスとも、昨年12月末が期限となる住宅ローン減税の駆け込み需要で年央では盛り上がりを見せたものの、期を通じては、景況感の悪化により売上減少となりました。損益は、減収に加え原材料価格の高騰等により、営業損失となりました。

・ **その他の事業** 売上高 308億円 (同34.9%減) 営業損失 21億円 (前期6億円の営業利益)

ゴルフ用品は、期前半で国内販売が好調に推移したことにより、対前期増収となりました。自動車用内装部品やマグネシウム部品は、厳しい市況が続いたことにより減収となりました。セグメント全体では、前期に実施したレクリエーション4施設の譲渡による減収影響51億円もあり減収となりました。損益は、レクリエーション施設譲渡による損益改善はありましたが、部品事業の損益悪化が大きく、営業損失となりました。なお、本年3月19日の取締役会においてマグネシウム成型部品事業から撤退することを決定いたしました。

**□ヤマハ株式会社単独の業績** — 対前期減収減益 当期純損失へ—

ヤマハ株式会社単独業績については、売上高は、2,746億円(前期比13.0%減)となりました。損益については、営業利益は12億円(同90.0%減)、経常利益は44億円(同75.7%減)と減益、当期純利益は、特別損失の計上等により189億円の当期純損失となりました。

**□2010年3月期業績予想について** — 減収減益、当期純利益は改善の予想 —

2010年3月期は、中期経営計画「YGP2010(Yamaha Growth Plan 2010)」最終年度となりますが、急激な経営環境の変化、世界的な経済の減速などの影響を受け、中期計画で掲げた経営数値目標の達成は困難との認識に至り、2010年3月期は、事業構造改革、業務改革の実行を組み込んでいく中で、次期の中期経営計画の検討期間として位置づける期とします。事業セグメント別には、円高による為替影響と世界的な市況低迷により、楽器事業は減収減益、AV・IT事業は減収を見込んでおります。電子部品事業は、携帯電話用音源LSI需要が引き続き減少するものの、シリコンマイクの事業化断念による構造改革効果及び当連結会計年度に実施した固定資産の減損効果もあり、損益改善を見込んでいます。リビング事業は、原価低減施策を進めることにより増益を、その他の事業はマグネシウム成型部品事業からの撤退及び自動車用内装部品の需要減少による減収を見込んでいます。

以上により、連結業績予想については、売上高4,390億円、営業利益60億円、経常利益30億円、当期純利益0の予想といたします。

注) 文章中の売上高、損益の数値は、原則億円未満四捨五入で記載しております。

以上

## 2009年3月期業績資料

ヤマハ株式会社  
2009年4月30日

	前期実績	当期予想 (09/3/19発表)	当期実績	次期予想	次期中間期予想
	08年3月期	09年3月期	09年3月期	10年3月期	10年3月期
売上高	5,488億円	4,650億円	4,593億円	4,390億円	2,125億円
国内売上高	2,767億円 (50.4%)	2,372億円 (51.0%)	2,349億円 (51.1%)	2,322億円 (52.9%)	1,127億円 (53.0%)
海外売上高	2,721億円 (49.6%)	2,278億円 (49.0%)	2,244億円 (48.9%)	2,068億円 (47.1%)	998億円 (47.0%)
営業利益	328億円 (6.0%)	115億円 (2.5%)	138億円 (3.0%)	60億円 (1.4%)	13億円 (0.6%)
経常利益	326億円 (5.9%)	95億円 (2.0%)	120億円 (2.6%)	30億円 (0.7%)	2億円 -
当期利益	396億円 (7.2%)	230億円 -	206億円 -	0億円 -	19億円 -
為替レート(決済レート)	116円/US\$ 159円/EUR	103円/US\$ 153円/EUR	102円/US\$ 153円/EUR	95円/US\$ 120円/EUR	95円/US\$ 120円/EUR
ROE	11.5%	7.6%	7.0%	0.0%	1.6% (*1)
ROA	7.2%	4.7%	4.3%	0.0%	0.9% (*2)
1株当たり利益	191.8円	115.7円	103.7円	0円	9.1円
設備投資 (減価償却費)	244億円 (203億円)	240億円 (181億円)	226億円 (179億円)	183億円 (152億円)	87億円 (70億円)
研究開発費	249億円	242億円	232億円	210億円	110億円
(フリーキャッシュフロー)					
営業活動	372億円	105億円	22億円	279億円	71億円
投資活動	420億円	261億円	260億円	180億円	109億円
フリーキャッシュフロー	792億円	366億円	282億円	99億円	38億円
期末在庫高	763億円	777億円	807億円	725億円	826億円
(要員数)					
国内	10,699人	10,822人	10,765人	10,850人	10,980人
海外	15,843人	15,806人	16,038人	16,150人	17,430人
合計 (*3) (連結範囲変動による増減)	26,542人 (1,082人)	26,628人 (179人)	26,803人 (148人)	27,000人 (319人)	28,410人 (324人)
(事業別売上高)					
楽器	3,400億円 (62.0%)	3,085億円 (66.3%)	3,066億円 (66.8%)	2,940億円 (67.0%)	1,454億円 (68.4%)
AV・IT	708億円 (12.9%)	580億円 (12.5%)	567億円 (12.3%)	530億円 (12.1%)	242億円 (11.4%)
電子部品 (*4)	-	225億円 (4.8%)	220億円 (4.8%)	220億円 (5.0%)	88億円 (4.2%)
電子機器・金属	450億円 (8.2%)	-	-	-	-
リビング	455億円 (8.3%)	445億円 (9.6%)	431億円 (9.4%)	430億円 (9.8%)	213億円 (10.0%)
レクリエーション	114億円 (2.1%)	-	-	-	-
その他 (*5)	361億円 (6.5%)	315億円 (6.8%)	308億円 (6.7%)	270億円 (6.1%)	128億円 (6.0%)
(事業別営業利益)					
楽器	279億円	175億円	192億円	90億円	53億円
AV・IT	18億円	5億円	4億円	5億円	12億円
電子部品 (*4)	-	30億円	25億円	10億円	19億円
電子機器・金属	19億円	-	-	-	-
リビング	6億円	0億円	3億円	5億円	1億円
レクリエーション	11億円	-	-	-	-
その他 (*5)	17億円	25億円	21億円	20億円	10億円

(単独の状況)

売上高	3,156億円	2,746億円
営業利益	123億円 (3.9%)	12億円 (0.5%)
経常利益	179億円 (5.7%)	44億円 (1.6%)
当期利益	620億円 (19.6%)	189億円 -

\*1, 2 次期中間期予想のROE・ROAは年換算値

\*3 要員数 = 期末正社員在籍数 + 期中平均正社員外要員在籍数 (前年実績は期末在籍数)

\*4 電子機器・金属事業は、電子金属事業の譲渡に伴い、2009年3月期より電子部品事業として表示しています。

\*5 レクリエーション施設の一部譲渡に伴い、2009年3月期よりその他の事業に同事業を含めています。

当資料の記載内容のうち、将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測には、リスクや不確定な要素などが含まれており、実際の成果や業績などは、記載の見通しとは異なる可能性があります。